SMILE

日本ボーイスカウト東京第4団機関紙

第61号

MAY 20, 1962

No. 61

発行人　田中正男

発行所　日本ボーイスカウト東京第4団

スマイル

1962

創立

15周年

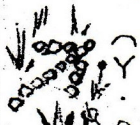
RS 1962　SS 1955　CS 1954　BS 1947

少年隊 15周年記念祝会開く

その昔、十六人で始まった四国は、今では ボーイスカウト・ガールスカウトを合せると 二百五十人余りの大家族となった。

昭和二十二年二月二十二日が誕生した日であるが、その記念日にあたって 少年隊では、去る二月二十四日に 仮等だけの 祝会を行なった。

当日 育成会々長の飯先生 国会員の佐藤さんより祝辞をいただき、そのあと、クリーンパーにより 食事が用意され、ずらった父兄に 日頃の成果をみせていた。（Y・O）



第四団 創立十五年に際して

霊南坂教会名誉牧師
ボーイスカウト日本連盟相談役
小崎道雄

十年一昔という事があるが、全くその通りで我がスカウトも創立十五年となると 凡てのことが変った。

創立の際のウイリアムス君は 今は北米の首都ワシントンの近くに住んでいるが、先日も書簡にてスカウトの近況を向合せてきた。

今田・飯田・小崎などがそれぞれ結婚して大先輩となり後に続くものも大きくなったものである。

日本のスカウトも 戦前の軍隊色のものが、民主的なスカウト創立となり 元来の姿に帰ったが 何しろスカウトは 基督教の教会で成長発達したものであるから 日本のスカウトは まだまだ真実のものとは申しがたい点が多い。

私ども教会スカウトの責任は重大である。東京の教会は時々スカウト運動を始めるものが 長続きせず中絶するのは残念である。それは 指導者を得ることが困難であるからである。この点 霊南坂は恵まれて多くのよい年長者が与えられて年少者の世話が 出来ることは 感謝である。

最近 大阪の教会の中にスカウトが組織され段々その数も増し 力強くなりつつあるのは 愉快なことである。教会のことは 関東より関西の方が実際的なことに熱心で実践力がある。教会スカウトも 或は大阪が指導者となっ

て全国の先頭に立つに至るかも知れない。

何よりもうれしいことは宗教章の制定されたことで、多年研究の結果、欧米の例に習い、宗教章が出来たのである。宗教章とは キリスト教なら、教会生活をよく出席するとか、聖書をよく読み、奉仕をするとかで、宗教章をつけ飾ることができるのである。

私は スカウトの願望だけの喜ぶ事実際のことは解らない、けれども、スカウトの誓はりっぱなものだと思う。あの通り実生活に生かされたら地上天国である。スカウトの隊員が このことをよく認識して実行しなければならんにもならない、空念仏となってしまう。それを生かすのが、

お互い教会スカウトの使命である。

どうか皆様、伝統も正史もよい雲南坂のスカウトとしてしっかり責任を果して下さい。

皆様方、[illegible]にも、[illegible]代表を選る皆様のスカウトが健全な成長をすることを私は常に祈って居ます

（十五周年記念誌より抜粋）

スマイル

スカウトは 快活である おきて・9

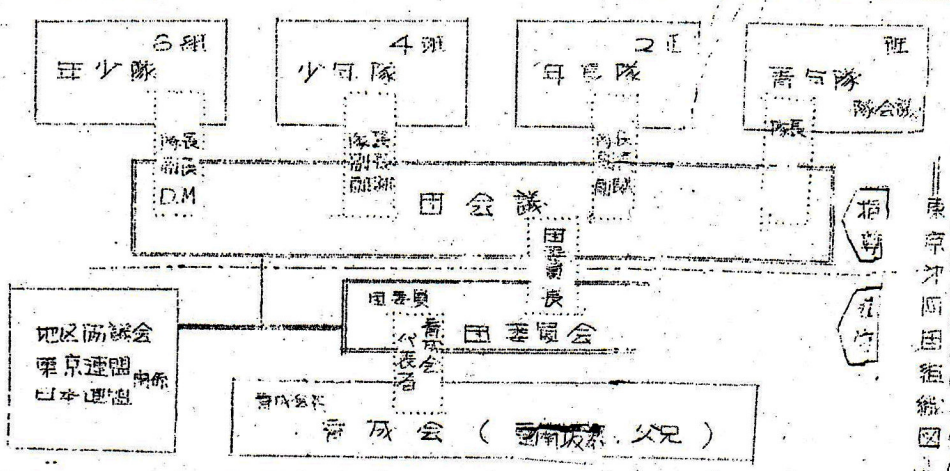
昭和二十四年九月四日に、第一号が発刊された。十三年目にあたり、本号で六十二号を迎えることとなった。

はじめから読んでいくと、四団の正史が手に取るようにひかれている。

"スマイル"これを英和辞典でひくと、「ほほえみ」とある。これはスカウトにとって最も大切なことだと思う。

団はこのように運営され指導される

—東京第四団組織図—



東京第四団の陳容

団役員

団役員
団委員長　田中正男
団委員　飯清牧師
教会関係者四名
OB　三名
父兄（年少）六名
（少年）八名
（年長）〇名
（青年）一名
以上二十名構成

団指導者とスカウト数

▼年少隊
隊長　杉原正
副長補　加藤理夫
デンマザー　野儀英童
日本部英一
渡辺恢子
萩原昌子
鬼見明子

▼少年隊
隊長　飯田貞雄
副長　高橋弘長
副長補　木下忠昭
柳健一

班別スカウト数
しか班　十一名
たか班　十一名
ライオン班　十名
くま班（隊付）　十名
一名

▼年長隊
隊長　今田富士雄
副長　安積発也
副長補　小林隆
スカウト数　八名

新編久美子
青年　梓

班別スカウト数
くま　十四名
しか　十四名
うさぎ　十四名
リす　九名

▼青年隊
アドバイザー　今田富士雄
スカウト数　十二名

隊付　小林昭夫
年長隊長　大浜良友

霊南坂スカウトの総数

37年5月1日現在

ボーイスカウト			ガールスカウト		
隊別	隊員数	指導者数	団別	団員数	指導者数
年少	51	9	ブラウニー	18	4
少年	43	4	ガール	35	5
年長	9	3	ラニヤ・	30	3
青年	12	1	仮称レンジャー	12	2
計	隊員 115 / 指導者 10	134	計	団員 95 / 指導者 14	109

総計：スカウト 245名　指導者 33名

記念行事の報告

―各係から―

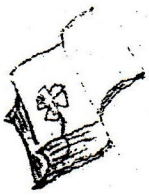
私達の部団が結成されてから はや十五回目の誕生日を迎えることになりました。

それを記念して 記念式典 記念誌発行・相例のパスピクニック等を行なうことが、二月十日の団会議で決定されました。

その後、形原年少隊々長を中心に、ボーイスカウト、ガールスカウトから選ばれた委員に、ローバー・レンジャーの協力で、各行事の準備が着々と進められてきました。

（K）

記念誌



会議の決定に従い、ボーイスカウトから木下思昭、遠山兼宏、ガールスカウトから

熊部牧子、松井靖枝、菅野芳美の五名が編集委員に選ばれ早速活動を始めた。十周年記念誌を参考にして、編集方針編集方法、印刷等細かな計画をたて検討した。

原稿は、スカウト・指導者からを主として集め、内容も単に「十五周年ちめでとう」式の文集にならないよう変化に富んだものとし、各隊の責任者に依頼した。より多くのスカウト達の作品を掲載すべく努力したが、何分にも紙面に限りがあるため、やむなく係で選択し、編集した。最初の計画では印刷も活版で、写真も多く、と思ったが予算の都合で出来なかったことは、大変残念である。急なことでもあり、短期間でもあったが、依頼した原稿の集りもおそくなり編集係として、大いに苦労した 今田、形原両隊長の両方もあり一同努力したにもかかわらず、当初の計画通りにならず、特に発行が二十日もおくれた事、深く反省している。

（遠山兼宏）

▽記念誌の概要△

・表紙 ケントラシャ上質紙 使用 原色（原案 寺江滝）

・本文 五十六頁 B・5 十五年史 十五頁

・別刷とじこみ 二枚（編集係から）

おわび

紙面に都合があるので、他の記念行事の報告は、来月号に掲載します

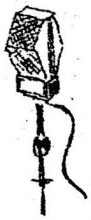
お知らせ

三月十一日
四国出身の、OB・OGが集まり、現指導者たちを招き激励した

三月三十日
少年隊・年少隊は日本教育テレビ番組、春休み子ども音楽会」に出演した

四月二十五日
今年で九年目を迎える日赤救急法講習会が行われた
試験の結果十一名のスカウトが救急員の資格を得た

四月二十八日
昭和三十七年度東京連盟総会が浅草天谷ホールで開かれた当日、田中国委員長が県連感謝章、杉原年少隊々長が県連有功章をそれぞれ贈与された



四月二十九日
・国土美化運動に、全国のスカウトが奉仕をしているが四国も東京のスカウトといっしょに班長隊・少年隊が銀座、皇居前を清掃した
・同じ日、少年隊グリーンバーは新宿御苑で開かれた「身体障害者慰安演芸会」の会場整理に奉仕をした
・その夜、四国の兄弟団である若五十三団では新しく少年隊が発隊した本団からも代表が式に列席しお祝いした

五月三日
ガールスカウトリーダーの塚田洋子さんが結婚式を挙げられた

五月二十日
年少隊の渡辺松子デンマザーが五人の仲間のトップをきって結婚にゴールインされます

編集後記

発刊期日まで時間が少なかったので、十五周年に関した記事だけになってしまいました。次号からは、OB訪問、友交団訪問等のような、団内団外の、隠れた記事を取材し内容の豊富な面白いものにしていきたいと思います。
また、団内交流を活発にするために、今までは季刊誌であったのを、月刊誌にしたいと思いますので、皆様の御後援をお願いいたします。
種々、お気付きの点やお知らせ記事、原稿等がありましたら編集部までお届け下さい（A.K）

本号の編集
山林昭夫・大浜良友